

第9回糸賀一雄記念未来賞受賞者・団体紹介

じゅんちゃん一座(青森県十和田市)



■活動歴

2005年から地域住民を対象に「もの忘れフォーラム」が医師会主催で実施されてきた経過の中で、市民から「寸劇を見て認知症を勉強したい」という声を受け、十和田市立中央病院の精神科医師が、寸劇を用いて認知症の普及啓発を行うボランティア団体（劇団）を地域の市民、保健師、介護支援専門員らに声をかけ2011年に結成された。公演を通じて、「認知症の人たちと共生できる地域」の理念を伝え、地域づくり・人づくりを行っている。

■活動内容

- ・公演は、子どもから高齢者まで、全世代が楽しみながら認知症を学ぶことができるように、精神科医による「専門的な講義」に加えて、方言を交えたユーモアあふれる寸劇を組合せ、「エデュテイメント（楽しみながら学ぶ）」の手法を用いて、笑いながら、自然に知識を身に着け、行動実践できるように工夫している。
- ・認知症の人が住み慣れた地域で安全・安心して暮らしを続けるためには、医療介護関係者だけでなく、子どもから高齢者まで地域の全世代の住民が認知症の症状や対応方法を理解し、実践できること、いわゆる「地域まるごと、ごちゃまぜ」での取り組みが必要であるとの考えで、人づくり、地域づくりを行っている。
- ・公演回数は、2023年6月末現在で215回。市民向け、医療・介護従事者向け、職場のメンタルヘルス研修、小中高大学の出前事業や、東日本大震災被災地支援の県外出前公演の実施など、多地域・広域での活動に広がってきた。東海大学では、地域コミュニティ論(1年次必修科目)の授業で一座の活動が地域コミュニティ活動の一例として取り上げられ、公演を収録したビデオが教材として活用されている。
- ・コロナ禍で従来と同様のやり方では活動が困難となり、ラジオ番組への出演、zoomによる講演、スマホアプリを用いたオリジナルラジオ番組の立ち上げ・放送、寸劇DVDの作成・配布などを行っている。また、高齢者・障がい者等の緊急時の医療アクセス改善に向け、「救急医療情報キット」と認知症を組み合わせた寸劇に取り組み、キットの普及啓発活動を行っている。

認知症理解への普及啓発として、方言による寸劇、またコロナ禍を受けた多様な手法開発など、発信力があり、また、親しみやすさを武器に、誰もが安心・安全に住み続けられるためのまちづくりを行う観点での取り組みは先駆的で、今後ますますの活躍が望まれるとして、糸賀一雄記念未来賞の受賞となりました。